



秋田県五城目町

みんなの町議会



目次

- 12月定例会の経過・年頭のあいさつ…… 2
- 主な補正予算・全員協議会…………… 3
- 常任委員会の焦点…………… 4～5
- 一般質問に8名登壇…………… 6～14
- 陳情…………… 15
- 議員研修報告…………… 16
- あれ なんとなったべが！…………… 17
- 楽しんでます・がんばってます…………… 18

No.137

2019年1月1日

森山でご来光を仰ぐ

2019

あけまして おめでとうございます



議会の経過

12月定例会は12月10日から14日までの5日間の日程で開かれた。

渡邊町長は行政報告で「水道事業における工事検査手数料について、30年間消費税を加算し、誤って徴収したことについて、町民に深くお詫び申し上げる。地域活性化支援センター指定管理者に、一般社団法人ドチャベンジャーズを候補者とすべきとの答申を受けた。消防団の再編について、第一段階として、分団の数を現在の13から9に、今後状況を見極めながら、第二段階として町の理想とする6分団制を目指す。五城目小学校改築について、町民の要望の多かった地域図書室設置などを反映させた結果、建設費が28億5,000万円となることから、設備などについて見直し25億

円に圧縮する」と述べた。

2日目、3日目の一般質問には8名が登壇。町民の安全・安心、農業法人の役割と支援策、災害への備え、地域活性化支援センターの取り組み、国保税の負担軽減、地域公共交通、文化財の保存・活用、まちづくりに関してなどの質問をした。

3日目、30年度一般会計補正予算案、地域活性化支援センター指定管理者指定案など17件が上程され、各委員会が審査した。

最終日は各常任委員長報告の後、人事案件を含む全議案を全会一致可決・承認・同意とした。陳情6件は全会一致で採択、1件は賛成少数で不採択とし、委員会提出議案6件を全会一致で可決し閉会した。

年頭のあいさつ

大いなる希望の年に



議長

小林 正志

明けましておめでとうございます。
新春を寿ぎ、議会を代表して御挨拶を申し上げます。

美智子妃殿下が「今上陛下」と呼んでらっしゃる天皇陛下は四月で退位され、皇太子殿下の即位により新元号に代わり元年の年となります。

議会は、消費税増税の中止を求める意見書を可決しておりますが、このままでは十月からの増税は避けられない状況です。政府は「いざなぎ景気を超える好景気」と判断しておるようですが、皆様はどのように受け止めておられるでしょうか。

昨年の世相を表す漢字は「災」。相次ぐ巨大地震、台風、豪雨と「災害列島日本」を実感する事態が相次いだ年でありました。「災害は忘れたころにやって来る」というのは寺田寅彦の言葉とされていますが、過去の警句となった感があります。

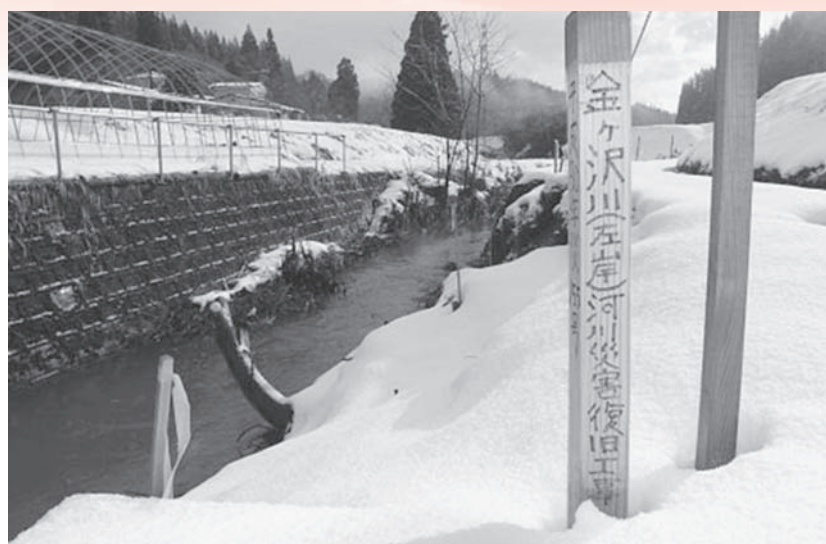
町民の生命、財産を守るべく四月から運用される防災行政無線は、防災・減災面からも適切な運用で「災い転じて福となす」よう期待するものです。東京都千代田区との姉妹都市提携から、早いもので三十年となります。原点に立ち返り発展する年となるよう願ってやみません。

新しい年が皆様にとりまして「大願成就」の年となりますようご祈念申し上げ、年頭の挨拶と致します。



補正予算の主なもの

- 除雪事業費 **4,155万円**
- 街灯施設費 **280万円**
- 雀館運動公園管理費 **267万円**
- 消防団費 **261万円**
- 教育施設整備基金積立金 **5,000万円**
- 災害復旧事業費 **1億1,212万円**



河川災害復旧現場

報告案件

(1) 雀館幹線の排水対策について

(5) 五城目町歴史資料寄贈受入要綱について

協議案件

(1) 五城目町消防団の再編について

(2) 五城目小学校改築事業について

(3) 公共施設の使用料適正化方針について

(4) 役場庁舎の敷地内禁煙について

議会議員全員協議会

平成30年11月22日

(石井 光雅)



新任

高橋

志帆氏(45歳)

築地町



新任

大石

成子氏(68歳)

下山内

教育委員会委員の

任命に同意

総務産業 常任委員会

ドチャベンジャーズを 指定管理者に指定



(一社)ドチャベンジャーズが指定管理者となる地域活性化支援センター

来年度より地域活性化支援センターを管理運営する指定管理者が一般社団法人ドチャベンジャーズに指定することが決まった。期間は4月から5年間。指定管理料は年間1,600万円。

地域活性化支援センターは旧馬場目小学校校舎を利用し、起業やコミュニティ活動などを実施する事業者を支援する場として2013年10月に開設した。

指定管理の期間や施設管理、入居業者の町中心部への移行、移住者と地域のふれあいなどについて多くの意見が出た。

水道事業会計 信頼の回復を

昨年10月7日に雀館町内で発生した水道本管漏水事故の復旧に伴う費用354万円と、水道事業における工事設計検査手数料誤徴収の返還分として166万円が補正された。

水道本管漏水事故の際には日曜日にもかかわらず、課をあげて緊急対応し迅速な復旧

作業が行われた。誤徴収は消費税が導入された平成元年から行われてきたが、しっかりと調査し、確実に返還を行い信頼回復に努めるよう意見が出た。

(荒川 滋)

災害復旧費13ヵ所分を補正



五城目外環状線の復旧工事

昨年5月の豪雨災害、河川9ヵ所・道路4ヵ所で復旧事業費は1億1,212万円。

河川

- ・金ヶ沢川 3ヵ所
- ・大畑沢川 2ヵ所

- ・猿沢川
- ・小川口川
- ・沢内沢川
- ・北口川

道路

- ・五城目外環状線
- ・二ノ沢線 1号、2号
- ・保呂瀬旧県道線

教育民生 常任委員会

町消防団 機能別消防団員制度を導入

消防団の基本団員のなり手がなく、消防活動に支障を来す恐れがあることから、消防団の充実強化に向け、機能別消防団員制度の導入と報酬の引き上げなどを行うこととした。

新たに設けられる機能別消防団員は定員を32人、定年を75歳とし、火災、自然災害、搜索など災害時の限定出動となる。

団員の報酬の引き上げについては、昨年3月の定例会においては「上に厚く、下に薄い改正ではないか」との意見があり、見直しを求められていた。今回の改正では役職によって、3千円から8千円の増額となる。

再編については第一段階として、13ある分団を9つにするとした。委員からは「今後の状況を見ながら、早期に第二段階へつなげるべき」などの意見があった。町としては6分団制を理想として



地域を守る町消防団

***機能別消防団員とは**
特定の活動にのみ参加する消防団員。時間帯を限定した活動や特定の災害種別へのみ活動し、消防団の活動を補完する役割を期待されている。

いる。
地域の防災力が低下するとのないよう、今後の動向を見極めながら取り組まなければならない。

小・中学校コンピュータシステム事業により、旧型のデスクトップパソコンからタブレット型パソコンへの機器の入れ替えが行われる。

各校に既に導入済みのタブレット50台に新たに40台を加え、90台体制になることで、これまで各校1クラス対応から1学年に対応出来るようになる。

このことにより、様々な場面での使用が可能となり、より授業展開が広がるとしている。



学びの環境がさらに充実

ICTの効果的な活用により、子どもたちの主体的・協働的な学びや学力の向上を目指すものである。

ICT教育の環境整備が進む

現在、首都圏を中心に風しんが流行しており、県内でも罹患が確認されている。

町では先天性風しん症候群から赤ちゃんを守るため、対象者について風しん予防接種費用を全額助成する。

助成の対象者としては、町に住所があり、風しんの抗体検査を受け、予防接種が必要と判断された方のうち、妊娠を希望する女性、又はその配偶者、妊娠検診で風しんの抗体価が低いことが判明した妊



町ホームページで確認を

婦の配偶者としている。

町のホームページ、広報などで詳細を周知する。

風しん予防接種費用を全額助成

一般質問

8議員が登壇 ただ 29項目を質す

一般質問とは？

一般質問は、年4回（3、6、9、12月）の町議会定例会において行われます。
議案とは関係なく、町政全般にわたって議員主導による政策論議であり、通告性が採用されています。
一般質問をするかしないかは、議員個人の判断によります。
*五城目町議会では、質問者1人につき持ち時間は60分（質問・答弁含む）となっています。

質問者

斎藤 晋 議員

○町民の安全・安心を守るために

佐々木仁茂 議員

- 農業法人の役割と支援策を問う
- 豪雨災害による農地・農業施設の復旧と今後について
- ため池の安全性について
- 道徳の小学校での教科について
- 歴史と文化の誇りある町を継承しよう

畑澤 洋子 議員

- 小規模企業・個人経営事業に結果を出す支援を
- 災害への備えを
- 緊急対策「小・中学校にエアコンの設置を急げ」

館岡 隆 議員

- 地域活性化支援センターの今後の取り組みについて
- 農林業の今後の取り組みについて
- 行政報告について

石川 交三 議員

- 五城目町消防団の再編について
- 館岡栗山作品の町所有の大作8点展示について

- 町民の暮らし応援「福祉灯油」を実施しよう
- 国保税の負担軽減を
- 県道のカーナビ案内の集成とネコバリ岩の国土地理院地形図への登録申請について

荒川 滋 議員

- 地域公共交通について
- 上水道について
- 豪雨時の浸水対策について
- 林業振興について
- 町民にとって関心の高い重要な項目である除雪について

椎名 志保 議員

- 町ともりやまこども園のかかわりについて
- これからの公共交通の体制について
- 地域活性化支援センターの取り組みについて
- 文化財の保存・活用について

佐藤 慶彦 議員

- まちづくりに関して
- 小学校改築に関して
- 行政報告について

*誌面の関係上掲載できなかった●印の質問については、町ホームページにて議会映像を配信しておりますのでそちらをご覧ください。

あなたにかわって
聞きました

一般質問

河川の管理は県、でも大雨から町民を守るのは町の責務

町長 河川の環境保全を推進し、町民の安全・安心に努める



斎藤 晋

町民の生命財産を守るのは町の責務である。

斎藤 大雨被害が相次いで発生している。川岸の柳の伐採・堆積した土砂の撤去・川底の^{しゅんせつ}浚渫など、今後どのように進めるか。

町長 町内を流れる河川は県の管轄である。河川の浚渫・護岸の雑木の伐採は状況を確認し、県へ要望している。今年には①久保橋下流部左岸300m浚渫・雑木の伐採②馬城橋上流部左岸200mの雑木伐採③竜馬橋上流左岸300m雑木の伐採など実施予定である。又、県では次年度以降も状況を確認し対応して行く予定である。

学童の通学路歩道の安全安心を守れ

斎藤 今町町内にある歩道は狭く凸凹であり、学童の安全を守るために改修すべきである。又、冬期間の歩道除雪が不十分なため、車道を歩かざるを得ない。学童の安全を守るために、歩道の除雪を完全にすべき。

町長 今町町内の歩道は、国道285号であった時期に整備され、その後町に払い下げを受けた歩道で有る。道路構造令からして幅員が狭く、未整備扱いとなっている。現在のままでの整備は困難と思われる。
※見守り隊や地域住民からの通報協力により適宜補修したい。
※歩道除雪に関し幅員が狭く、歩道除雪車での除雪が出来ないため町の家庭用除雪機を活用し町の作業員による除雪を試みたい。



歩道は凸凹危険がいっぱい



狭く凸凹の通学路

高齢者にも優しい町に

斎藤 樺通りの歩道は樺の根による凸凹が多く、高齢者が杖を突いたりシルバー車を押して歩くのには危険がいっぱいである。高齢者にも優しい町にすべきである。

町長 パトロールや通報を受け、随時修繕などを実施する。樺の根の切除については、樹木の倒壊事故につながる例もあり一概に切除できないと思われる。樺の維持管理に関し検討する。

その他に
○緊急通報から放水までの時間は
○火災報知器の普及率は
○消防団員の補充や改変をどう進める
○消防署員の酒気帯び運転のチェック方法は
などを質問しました。

有形文化財の保護・継承を

一般質問

教育長 県の文化財保護担当部局などと
連携し対応する



アプローチに工夫が欲しい文化の館



佐々木仁茂

佐々木 個人所有の有形文化財は、所有者それぞれの生活環境の変化で保護・継承が心配される。また風雨にさらされている指定石造文化財は、風化が進むがその保護と対策は。

教育長 文化財の滅失や散逸等が進行し、それらを防止する方策が急務である。

個人所有の有形文化財51件について、県の文化財保護担当部局などとの連携を密にし、保存知識や保存のノウハウなどの情報を提供。また、文化財の所在確認や所有者確認などを実施する。

風雨にさらされている板碑3件・石造4件は、写真等によるデータ記録に努め、後世に残せるように対応していく。

文化の館 入館者を増やそう

佐々木 文化の館には町の歴史と文化を知ることが出来る貴重な出土品や資料が展示されている。昨年度の入館者は激減している。現状認識と対応策は。

教育長 中山遺跡発掘調査終了後の研究発表会や特別展示の開催で一時は入館者が増えたが、その後PR不足などで減少した。今後は、定期的に出土品の展示変えを行うとともに、ホームページなどによる情報発信や小中学校の学習の場として活用してもらう。

農業法人立ち上げの 支援策を問う

佐々木 高岳地区圃場整備事業計画に伴い浦横町地区では、農業法人の立ち上げ準備が進められている。新たな法人立ち上げに対し、どのような支援と対応をするのか。

町長 県の指導で町が窓口となり、どのようなタイプが浦横町地区に最適な法人になるかを検討する。

支援内容としては、生産体制及び6次産業化を整備するための各種農業機械の導入やビニールハウス等の施設整備のほか、新規就農者への支援など、補助事業を利用した体制の強化が、主なものである。

豪雨被害を受けた 農地の復旧を

佐々木 災害対応で復旧するようだが、測量の終わった手つかずの農地が多く見受けられ、来年の作付けに間に合う復旧工事が出来るのか。

町長 現在、全県的に業者が手持ち工事を多く抱えていて県・町を含め、業者の応札無



豪雨被害を受けた農地

しや入札辞退が続いている。工事の内容が農地の排土と客土であり、積雪期の施工は困難であることから、雪解け後の工事はやむを得ず、来年の作付けは難しい状況となることが予想される。

佐々木 農家のために作付けが出来る復旧工事を。

河川氾濫を防ぐ 解決の見通しは

佐々木 度重なる河川の氾濫に苦悩する農家の心情を思えば、心が痛む。今後河川の災害対応はどうするのか。

町長 県は、町からの被害報告や要望を踏まえ、度重なる被害を受けた場所を優先的に河川改修事業に向けて、調査や地元調整を進めている。早期に工事着手するように、強く働きかけていく。

あなたにかわって
聞きました

一般質問

fーBizモデルの手法を 3町商工会にも

町長 3町と商工会で地域産業の発展に 取り組む



煙澤 洋子
(公明党)

煙澤 町内で頑張っている中
小企業・個人商店が元気になる
らずして町の賑わいは生まれ
ない。fーBizモデルを応
用したノウハウ
を持つ人材を3
町で育成し商工
会に派遣しては
どうか。

町長 提言は理
解できるが商工
会の基本業務に
重複することか
ら、3町と商工
会で職員各々が
スキルアップを
図り地域産業の
発展と振興に向
け取り組む。



千葉県木更津市「らづ-Biz」を視察

*Bizモデルとは
地域の中小企業や起業家に光を当て、
より輝けるよう応援する産業支援の新
しいカタチ

小中学校にエアコンの設置を急げ

煙澤 猛暑による学校現場の
切実な状況を踏まえ、自治体
の背中を押す補正予算(実質負
担率を26・7%に抑える)を成
立。小学校は保健室とコン
ピューター室のみ設置されてい
るが、新校舎完成まで2回も
夏がくる。中学校は災害時に
避難所になるため、体育館・
特別教室にも設置が必要だ。

教育長 学校の管理下での熱
中症事故は、ほとんどが体育
スポーツ活動中によるもの。
活動前に水分補給・必要に応
じて水分や塩分を補給できる
環境を整え、終了後にも補給
を行うなど、教職員や指導者
へ適切な対応の徹底を指導す
る。

災害時用備蓄 食品の備えは

煙澤 備蓄中の食品の「想定
災害・人数・食数」は。消費
期限5年に迫る食品の処分方
法は。自主避難時にも提供で
きないか。乳児用粉ミルクを、
お湯の必要がない液体ミルク
で備蓄してほしい。

町長 冬の18時、北由利断層
から発生した地震を想定。町
の避難者は600人に見込
む。備蓄食160人分を
1,400食。

消費期限が迫る食品は、自
主防災組織や町内会の防災訓
練、炊き出し、試食に活用。
自主避難時は自助による食料

地域防災計画に ついて

煙澤 自主防災組織と、防災
計画策定の進捗状況。防災士
の人数。女性防災士は誕生し
たか。

町長 全72町内会のうち20町
内会で防災組織設置済。ある
程度設置メドがたつたら防災
計画を策定していく。防災士
は男性4名となっている。

タイムラインの 取り組みは

煙澤 夏の自主避難状況から
「馬場目川氾濫を想定したタ
イムライン策定」が必要では。

町長 秋田地域県管理河川減
災対策協議会を設置しその中
で策定している。氾濫が予想
される48時間前からの行動を
示している。

持参をお願いしているが、長
期になる時は、備蓄以外の町
が調達した食料を提供してい
る。液体ミルクは県と協議す
る。

あなたにかわって
聞きました

一般質問

5年間で約1億円 町民の理解が得れるか

町長 民間事業者のノウハウや人脈を活用し
町と連携して活性化を図る



館岡 隆

地域活性化支援センター(旧馬場目小)の 今後の取り組み

館岡 4月1日より指定管理者制度を予定しているが、5年間は長過ぎる。又建物の管理は町内業者にさせ、指定管理者には企業誘致や起業促進に集中させるべきだ。5年間で1億円近い管理料は高過ぎる。分割管理した方が地元経済効果がある。

町長 民間事業者のノウハウを活用し、利用者のサービスの向上・管理経費の縮減・新規入居者の獲得・現入居者の中心市街地への誘導をする。町は指定管理者と連携し地域活性化に努める。



地域活性化支援センター

農地基盤整備事業(小沼、下川原地区)

館岡 事業の範囲が大きくなりすぎ当初の計画も確定しない状況である。小沼、下川原地域を早急に事業推進すべきだ。

町長 平成30年8月に、事業の範囲が確定した。現在本同意の手続きをすすめる。本同意が終了したら事業採択の申請を県へ提出する。

森林環境税(仮称)の使い道について

館岡 平成36年から年額1,000円が個人に課される。それに先だって平成31年度より森林環境譲与税(仮称)が市町村に譲与される。事業内容にある都市交流事業にも大いに注目すべきである。千代田区との交流で「山の学校・植林村事業等」内容の濃い事業が考えられる。

町長 平成31年度から譲与され初年度は1,300万円、15年後には、1億5,000万円と試算される。内容は市町村が行う間伐・人材育成担い手の確保・木材利用の促進や普及啓発・森林整備における森林所有者への意向調査、境界確認等実施する。平成31年4月より新たな法律、「森林経営管理制度」がスタートする。町が介入することにより間伐手遅れ林の解消や再造林が促進され、土砂災害等の発生リスクが低減し地域住民の安全安心に寄与する。

多面的支払交付金 事業について

館岡 平成19年度から始まった「農地、水保全管理支払交付金」が平成26年度より「多面的機能支払交付金」へかわったが、現在の組織の状況は。

町長 現在26組織、906ha、約5,500万円の事業を行っている。共同作業を通じて世代を超えたコミュニケーション強化が図られ、担い手農家への農地集積

を後押ししている。今年度、最終年度を迎える26組織のうち残念ながら地域事情により3組織が平成31年度以降活動を終了する。

館岡 その3組織内の1組織の活動が特にトラブルが起きているが、行政の責任は誠に重大である。

町長 肅々と解決に向け進めていく。

その他に

○町長の海外視察の成果

○本町の作況指数

を質問しました。

一般質問

暮らし応援で 福祉灯油を実現しよう

町長 灯油価格は町民生活への影響が大きく、
今後動向を見ながら検討したい。



暮らしに厳しい灯油の高値

石川 秋田さきがけの記事に「灯油高値、生活に影」「冬の需要期、消費者悲鳴」のタイトルで、灯油の高値が企業や消費者に影響を与えていることが報道されている。

町内のスタンドに確認したら「灯油18リットルで配達・現金が1,710円」という。最高値のピークは過ぎた感があるが、それでも昨年と比べると高い。以前にも灯油引換券を支給した前例がある。町民の負担増を抑えて、暮らしを助ます観点から「福祉灯油」の実施を求めたいがどうか。

町長 平成25年度・26年度に、高齢者世帯などへ1世帯当た



石川 交三
(日本共産党)

り五千円の灯油引換券一枚を支給した経緯がある。灯油価格は10月には1リットル当たり102円まで上昇し、現在は99円でゆるやかに下降しているが、以前のピーク時の108円に近い単価であり、町民生活への影響は大きい。事業の実施は効果的な対策を図るため、県と共同で行うべきだが、現時点で県は動向を注視している段階だ。

今後も、価格や県・周辺市町村の動向を見ながら検討したい。

国保税の負担軽減を

石川 国保は高く、担税力を超えた「過酷な税」と考えるが町長の認識も同様か。

町長 事業主負担がなく、国庫負担で制度を支えてきたが、人口減少による加入者減、高齢化などにより保険税の負担感は増している。所得に応じた軽減制度はあるものの、均等割りや平等割りの課税制度により多世帯ほど負担が大き

く、割高感はある。石川 構造上の問題から「重すぎる税」となっている。広域化に伴って、次期改定時に引き上げの可能性はあるか。

町長 県より事業費納付金や必要とする保険税の配分があり、仮に引き上げ決定がなされた場合には、資格者の減少や基金の乏しい現状などを考慮すれば引き上げもやむを得ないとなるが、財政状況や国・県の負担状況を踏まえながら判断したい。

石川 子どもの均等割りは軽減すべきだ。他の被用者保険には存在しない課税方式だ。家族の人数に応じてかかるので、家族が多いほど高くなる仕組みだ。子育て支援を進め、子どもを産んでほしいと言いつつ「なんで産んだら保険税をかけるのか」という不満の声があるがどうか。

町長 収入のない子どもへの均等割り負担は、国保制度上、特有のものだ。減免は国における政策についての対応を望むところである。

ネコバリ岩を国土 地理院の地形図に 掲載申請しては

石川 町として、山や森を国土地理院の地形図に掲載申請する方法があるようだ。観光スポットとなっている「ネコバリ岩」の掲載を申請しては



地形図に掲載を

町長 ネコバリ岩は新たな観光拠点として広く周知されるようになったが、国有林野内にある。所管する米代西部森林管理署と協議し、町が安全確保に努めるなどの諸条件をクリアすれば、国土地理院の地形図に「ネコバリ岩」を掲載するための町の申請は可能との回答をいただいた。今後、前向きに協議、検討する。

その他に

○五城目町消防団の再編について

○館岡栗山作品で町に寄贈された大作8点の展示・活用について

を質問しました。

一般質問

林業振興の 新政策に対する備えは

町長 関係機関との連携を密にし
成長産業化を目指す



林業の町復活を

荒川 来年度より『新たな森林管理システム』と『森林環境譲与税』が施行される予定だが、町の備えは万全か。

町長 『新たな森林管理システム』により国・県・森林組合との連携を密にし、森林の多面的機能の発揮と林業の成長産業化を目指す。

『森林環境譲与税』は関係森林所有者への意向調査・境界確認等を実施するとともに同税基金への積み立てする予定。



荒川 滋

上水道異常 情報伝達が必要だ

荒川 7月にも上水道の濁りが発生したが、異常時には飲用の可否を含め状況を町の広報やホームページで公表すべき。

町長 近隣市町村の例を参考にして広報に一度案内を掲載し、ホームページで住民に情報伝達していく。



老朽化が進む配水池

荒川 老朽化が進む配水池の将来ビジョンは。

町長 配水池の築造には多額の費用が必要となる。簡易水道統合による減価償却費や企業債の償還がピークを迎えており今後数年間は厳しい経営状態が続く。経営改善に取り組み赤字解消したうえで更新計画を進めたい。

きやどっこ号 来年度は



今後どうなる、きやどっこ号

荒川 ダイヤ改正後の利用実績は微増したが今後の対応は。

町長 運行ルートの拡大や増便、定期券・回数券の発行、免許返納者に対する割引導入などの要望について、今後の利用状況などを勘案し利用促進につながる対策を講じる。

荒川 路線や時間を変更して来年度、再度の実証運行を行う予定はあるか。

町長 バス需要がない場合は打ち切りとなるが、しっかりと見極めて、打ち切りか継続か内容見直し、年度内には方向性を示す。

荒川 乗合タクシーの乗車対象を一部五城目地区にも広げべき。

住宅浸水被害 今後の対応は

町長 中心市街地から1、500m圏内では乗車対象としておらず、タクシー事業者の慢性的な運転士不足もあり難しい。きやどっこ号を利用していたきたい。

荒川 豪雨時の住宅浸水対策は今後どう対応していくか。

町長 発生原因を特定するには広範囲的な集中調査が必要だ。排水対策に当たって各種団体との調整などで多くの時間を有する個所もあると思われる。今後も引き続き調査調整にとり掛かっていくので猶予をいただきたい。

荒川 豪雨時の住宅浸水対策はいつこうに進んでいない。その都度被害に遭う方々は気の毒でならない。一刻も早く結果を出していただきたい。



いつこうに進まない浸水対策

一般質問

こども園へ 万全な協力体制を

町長 保育環境整備のため 支援体制を整える



椎名 志保

椎名 もりやまこども園・大川分園園舎が耐震調査において、国が示す耐震基準を満たしていないとの判断を受けた。

大川分園の今後をどう考えるか。

町長 大川分園は、小規模保育園としての利点を活かしたきめ細やかな保育活動を展開している。保護者からの評価も高いことから、今後も存続し、耐震補強工事の実施に向け準備を進めている。

椎名 以前、労働基準監督署から職員の勤務状況に対し、指摘を受けたことがあった。

必要な時間外労働にはきちんと手当を支払い、保育事務についても園内で終えることに努め、働く



耐震補強工事が待たれる大川分園

場としての環境整備を行う必要がないか。

町長 ここ数年、職員の処遇改善に積極的に取り組み、来年度3名の新規採用が内定している。今後は、教育・保育に付随した事務処理の効率化を図る保育システムを導入するなど、業務内容の改善に努めていく。

椎名 保育・幼児教育が充実しているこども園が、若い世代の移住・定住の呼び水となるよう、町として園とのかかわりをより強固なものにするべきではないか。

町長 もりやまこども園の今後の取り組みに期待し、町としても更なる協力体制を整えていく。

安心して運転免許を 返納できる体制を

椎名 町中心部を走るコミュニティバスきやどっこ号、周辺地域の足となっている乗合タクシーの利用状況は。

町長 きやどっこ号は10月から11月までの48日間延べ231人、1日当たり4.8人の利用。乗合タクシーは4月から11月までの8カ月間で、4路線合わせて延べ6,596人、1日平均33人の利用であり、前年度とほぼ同じ利用状況である。

椎名 きやどっこ号の利用を増やすため、もっと実際に乗車してもらう手立てが必要ではないか。

町長 利用者の意見や要望を聞き、運行の改善に努めるとともに、まちづくり活動チャレンジ支援事業なども活用し、実際に乗車していただく機会を検討していく。

椎名 乗合タクシーは決して利用しやすいものではないという声を聞いている。今後、スマホの配車アプリを活用した公共交通空白地有償運送も検討してみてもどうか。

町長 地域が望む公共交通を地域自らが運営する体制づくりを検討し、平成33年度まで

に1団体の設立を目標としている。スマホの配車アプリ活用についても可能性を検討していく。



利用者増加が望まれる乗合タクシー

馬場目ベースの活動 成果が見えやすく

椎名 地域活性化支援センターの活動が馬場目ベースの運営だけでなく、町が抱える地域課題解決につながる成果を示していくべきではないか。

町長 この度の指定管理者の公募において申請された一般社団法人ドチャベンジャーズに対し、本施設の更なる利活用と地域貢献のために、入居企業が卒業し、町内で活躍することへの対応などの発展課題を提起している。民間活力と行政が連携し、今後も取り組んでいく。

一般質問

事務の移管も含め 組織の再編時期だ

総務課長 十分可能であり、
今後検討していく



佐藤 慶彦

佐藤 地区公民館は教育委員会管轄で社会教育を目的としており、地域の活性化を目的としていない。時代に即し、まちづくり課などの首長部局へ移管し、(仮)交流センターとして地域の活性化を図るべきだ。

町長 全国的に公民館を交流センターへ移行し、地域づくりの拠点として機能の充実を図ってきており、新たな地域づくりを考える上で参考になる。今後先進事例の調査をさせて頂きたい。

佐藤 その上で各地区に集落支援員を配置し、専任の集落支援員制度を最大限活用した地域づくりをすべきだ。

「葉っぱビジネス」で有名な徳島県上勝町は人口が1,400人ほど



長らく組織体制が変わっていない

*集落支援員制度

総務省の地方の再生策で、集落への「目配り」として、集落の巡回、状況把握を行う。

支援員一人当たり350万円を上限に国から財政措置され、地域おこし協力隊と違い年齢や3年間という縛りもなく、町内在住者も任命できる。

だが、専任の集落支援員を52名任命し、集落支援のみならず経済効果も高く、地域の活性化に役立っている。

町長 集落支援員制度を活用して、日常生活に不足する生活サービスを維持するための活動をサポートする体制づくりは大変重要なものになると考えられ、こちらも先進事例などの調査をさせて頂きたい。

組織の再編時期では

佐藤 渡邊町政になり、13年前にまちづくり課を設置した以降は、大きな機構改革を行っていない。

子育てに関わる管轄は、健康福祉課と学校教育課にまたがり、子育て世代からは分かりづらく大変不便である。文化施設は、文化財の収集や保護が目的で、観光客を呼び込むのを目的としていない。

そもそも公民館や文化施設を所管する教育委員会委員には文化やスポーツの知見者を任命していないなど時代とともに不具合が増えて来た。事務の移管も含め組織の再編をすべきだ。

総務課長 検討することは十分可能であり、今後、組織機構の改革の中で検討していく。

行事の見直しも必要だ

佐藤 多岐に渡る町行事の今後の方向性は。

町長 スタッフの確保に苦慮している行事が出てきている

ことや、町とはほぼ同じ内容の行事を他団体の主催でも実施されているなどの事例があることから、今一度各行事の内容についての検証を行い、その上で個々の行事の課題について、統廃合も含めた改善策を作成し、町民から望まれる行事を実施したい。

通学路の安全対策を

佐藤 小学校建設にあたり、通学路や周辺の安全確保の準備状況は。雀館周辺は街灯が少ない上に街路樹が伸び、街灯が隠れ、普段から危険だ。

教育長 児童の居住分布を予測しながら徒歩通学やスクールバス・タクシートの通学状況を想定した基礎資料を作成し精査中である。

新通学路は関係機関と合同点検を実施し、危険箇所は関係機関と協議の上必要な対策を取っていく。

また街灯の設置や樹木の剪定などの安全対策を行っている。

陳情と 意見書

五城目町議会が議決した意見書を各関係機関に提出しました。

採択

◆安心・安全の医療・介護の実現と夜勤改善と大幅増員のため国に対し意見書の提出を求める陳情

秋田県医療労働組合連合会

執行委員長 渋谷 一

意見書

医師・看護師・医療技術職介護職などの夜勤交替制労働における労働環境の改善を求める。

採択

◆「介護労働者の労働環境及び処遇の改善」のために国に対し意見書の提出を求める陳情

秋田県医療労働組合連合会

執行委員長 渋谷 一

意見書

実効性のある介護人材確保・離職防止対策の確立を求める。

採択

◆看護師の全国を適用地域とした特定最賃の新設のため国に対し意見書を求める

秋田県医療労働組合連合会

執行委員長 渋谷 一

意見書

看護師の賃金底上げなど処遇の改善、人材確保と体制強化を求める。

採択

◆75歳以上の後期高齢者医療自己負担を2割にしないことを国に求める陳情書

秋田県社会保険推進協議会

会長 渡辺 淳

全日本年金者組合秋田県本部
執行委員長 大坂谷邦雄

採択

◆介護保険制度の改善・介護従事者の処遇改善等を国に求める陳情書

秋田県社会保険推進協議会

会長 渡辺 淳



介護士の処遇改善急務

採択

◆パーキンソン病（難病）対策の充実を求める陳情書

全国パーキンソン病友の会
秋田県支部

支部長 佐藤 寛

意見書

パーキンソン病の患者の安心な治療体制と負担軽減・根治療法の確立を求める。

臓器提供意思表示カード

厚生労働省・(公社)日本臓器移植ネットワーク

このカードは常に携帯してください。



ドナー情報全国共通連絡先 0120-22-0149
臓器移植に関するお問い合わせ先：(公社)日本臓器移植ネットワーク
フリーダイヤル 0120-78-1069 <http://www.jotnw.or.jp>

臓器提供カードで意思表示を

不採択

◆臓器移植の環境整備を求める意見書の採択を求める陳情書

移植ツーリズムを考える会

理事 井田 敏美

採択に賛成の議員

畑澤 洋子

採択に反対の議員

荒川 滋 椎名 志保
佐藤 慶彦 斎藤 晋
佐々木仁茂 石井 光雅
伊藤 正春 館岡 隆
佐藤 重信 千田 峯夫
荒川 正己 石川 交三

◎医師が、渡航臓器移植を受けた患者を覚知した際、厚生労働省への告知義務を求めるのは、医師法の守秘義務と個人情報保護に関する法律に抵触するのが主な反対理由。

議員研修報告

研修名 五城目町議会議員研修

研修期間 11月11日～13日

11日、第30回ふるさと五城目会総会（東京都墨田区東武ホテルレバン
ト東京）



盛大に行われた第30回総会

▼中小企業支援の取り組みを学ぶ

12日午前

千葉県木更津市にある「木更津市産業・創業支援センターらづーBiz」を視察。

○中小企業の売上アップと創業支援の連携強化を図るため、行列のできる相談所として国や自治体から注目されている「静岡県富士市産業支援センターらづーBiz（えふびず）」をモデルとして、センター長の全国公募を行い、2018年2月から開設。

▼起業家の育成システムを学ぶ

12日午後

東京都台東区にある「台東デザインズビレッジ」を視察。

○ファッションや雑貨、デザイン関連ビジネス分野での起業を目指すデザイナーやクリエイターを支援する施設として廃校舎を活用して

設立。

インキュベーションマネージャー（通称村長）による厳密な入居審査やブランド育成のアドバイスを行っており、入居は最長3年間。その間に周辺空き店舗での起業を支援し、多くの起業実績がある。



千葉県木更津市の「らづーBiz」を視察

13日

千代田区の「高齢者総合サポートかがやきプラザ」と「東京ミッドタウン日比谷」を視察。

研修名

町村議会議員特別セミナー
「地方自治体における森林政策の現状と課題」

研修期間 10月4～5日

研修先

滋賀県大津市・全国国際文化研修所
参加議員 荒川 滋

研修名

トップマネジメントセミナー
研修期間 10月15～16日

研修先

滋賀県大津市・全国国際文化研修所
参加議員 佐藤 慶彦

研修名

地方分権と自治体の行政改革
研修期間 10月29～31日

研修先

滋賀県大津市・全国国際文化研修所
参加議員 佐藤 慶彦

研修名

市町村議会議員特別セミナー
研修期間 11月19～20日

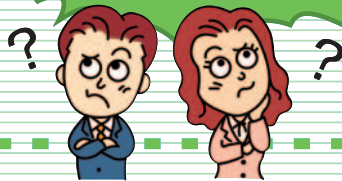
研修先

滋賀県大津市・全国国際文化研修所
参加議員 伊藤 正春

（佐藤 慶彦）



あれ



なんとなつたべが!

平成29年12月定例会一般質問より

問

公共施設のWi・Fi環境の整備促進を。

答

総務省の無線システム普及事業費補助金制度を活用して、町民センター・広域体育館・屋内温水プールの3施設へ公衆無線LANを整備するために予算を計上した。

現在

総務省の無線システム普及支援事業費等補助金を活用し、町民センターに4箇所、広域体育館に5箇所、屋内温水プールに2箇所のアクセスポイントを設置しました。3施設のWi・Fi環境が整備され、施設内どこでも、無料でインターネット接続ができる状況となっている。



Wi・Fi環境が整った3施設

問

終活支援事業を進めよう。

答

すべての町民が最期まで幸せな人生を送れるよう、サポートする体制づくりを進める。

現在

地域包括支援センターで取り組んでいる「集いの場サロン」活動の一環として、終活に関する啓発に努めている。

問

友愛館を山菜の栽培支援の拠点とし、指定管理への移行を考えては。

答

友愛館ではシドケの栽培支援を行っている。栽培支援を継続し、栽培技術の向上や他の山菜などの栽培支援が可能か関係者と協議をしていく。指定管理については、地元の意向を確認しながら今後の利活用に努めたい。

現在

友愛館ではシドケの栽培支援として、希望する方に無料でシドケの種を配布している。指定管理については、地元の意向を確認しながら今後の利活用に努めていく。

問

鳥井森鈴翁の秋田追分を、もっと町民や来町者の方々に知ってもらうために、朝市をはじめ観光施設や公共施設でBGMとして流しては。

答

秋田追分の正しい伝承と、保存及び普及を図ることを目的に大会は開催されているが、各施設の利用状況を考慮しながら、その普及を図る方策として今後協議、検討していく。

現在

秋田追分全国大会の大会前に機運を高めるため、朝市ふれあい館でBGMとして流しており、今後他施設への拡大を図っていく。

(佐々木仁茂)



『心に響く歌声を』

コールもりやま



代表 伊藤 令子さん（大川）
（前列右から3人目）

◆活動をご紹介ください。

伊藤 小玉正文先生ご指導の下、昨年創立40周年を迎えることが出来ました。

現在のメンバーは19名。町功労者表彰式や戦没者追悼式など、町の諸行事への協力が主な活動です。また年に一度、周辺市町村の合唱グループが一堂に会して開かれる「八郎湖音楽祭」で、満足のいく演奏をすることが毎年の目標です。

◆心に残っている演奏は。

伊藤 今から15年ほど前、姉妹都市である千代田区のカザルスホールで開かれた区民コーラスフェスティバルにおいて「なまはげ組曲」を披露させていただいたことがありました。他のグルー

プがドイツ語やイタリア語の名曲を歌われる中、わらべ歌を交えた秋田の創作曲は斬新で素晴らしいと感じました。あ当時の感動が今でも忘れられません。

◆自分にとってコーラスとは。

伊藤 生活の一部であり、ハーモニを共有する仲間が人生の支えとなっている。これからも「歌」を生涯の友とし、明るく前向きに生きていきたいと思っています。

◆町や議会に望むことは。

伊藤 芸術や文化の発表の場となるホールの建設を前向きに考えていただきたいです。

（椎名 志保）

がんばってます

『私の目標』



五城目第一中学校3年
嶋崎 みゆう 海優さん
（曙町）



私は今回、税の作文コンクールで秋田北税務署長賞を頂きました。たくさんの方に税金の大切さを伝えたいと思ったため、私の思いを書いた作品が選ばれ本当に嬉しかったです。将来納税者になったら、税金の支えに感謝し、責任をもって納めていきたいと思っています。

また、私が今までがんばってきたこと、そしてこれからがんばりたいことはバレーボールです。小学校のときに何となく始めたバレーボールでしたが、中

学校でもバレーボール部に入部し、いろいろなことを学んでいくうちに、私にとってかけがえのないものになりました。キャプテンとなつてからはセッターと両立がとても大変でした。けれど辞めたいと思つたことは一度もありませんでした。「三年生最後の夏の大会で優勝する。」という目標があったからです。秋・春と準優勝だった悔しさを忘れずに、日々厳しい練習に励んできました。そして最後の中総体で優勝し、全県大会に出場することができました。優勝できたのは監督、コーチ、保護者の方々の支えがあったからだと思っています。

私は高校でもバレーボールを続け、セッターとして活躍したいです。次はその目標に向かってがんばります。

（荒川 滋）

編集

後記



あけましておめでとうございます。皆様には、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

東京の下町、谷根千（谷中、根津、千駄木）を歩く機会があった。

下町風情の残る古き良き東京の街並み。代々続く老舗と古民家や古い店舗をリノベーションしたカフェやレストラン、雑貨屋や洋装店が混在し、観光スポットとなっている。その町なかを真つ赤なコミュニティバスが巡る。

設立から5周年を迎えた地域活性化支援センター。来年度から一般社団法人ドチャベジヤーズが運営にあたる。馬場目ベースから巣立った若者が、朝市通りに店や事務所を構えるなど、町なかの賑わいづくりに期待したい。

「みんなの町議会」今後とも皆様に愛される誌面作りに努めてまいります。お声掛けくださいますよう。

椎名 志保